# 2025 年 9 月【堀内議員】一般質問　文字起こし

**充実した子育て支援策の PR とふるさと応援寄付金の活用**

[00:00] 議長：休憩前に引き続き会議を再開します。次の質問に移ります。堀内富雄議員。

[00:33] 堀内富雄 議員：議席番号 4 番、堀内富雄です。議長のお許しを得ましたので、ただ今より一般質問に入らせていただきます。大きく 1 点、子育て支援策が充実している庄原市を大々的に打ち出すためにという提案で、いくつかさせていただきたいと思います。1 つ目の小項目として、現状の子育て支援の見せ方についてです。庄原市では医療費助成の拡充や入学祝い金、子育て世代包括支援センターの運営など、他に劣らない多様な子育て支援施策を展開しています。しかし、子育て世代をはじめ、多くの市民や市外の人々にとって、その全体像や庄原市が子育てを第一に考えているという姿勢、具体的な支援施策が十分に伝わっていないのではないかと感じています。今、子育て世代をはじめと申しましたが、自分のような独身者が、そろそろ結婚して子供が欲しいなと思って、ホームページで庄原市の子育てについて調べると、少しイメージが湧きませんでした。そういったことから、もっと市内外に分かりやすく打ち出せる仕組みづくりが必要なのではないかと考えますが、市長の見解を伺います。以上の質問は質問席より行います。

[02:24] 市長：ご質問にお答えいたします。本市が実施している子育て支援施策については、第 2 期庄原市長期総合計画及び庄原市未来子どもプランに基づき、安心を実感できる子育て環境の充実に取組んでいるところでございます。本市のまちづくりに関する姿勢等につきましては、市の最上位計画である庄原市長期総合計画において定めておりますが、市が実施するどの施策も、市民の皆様が望む将来像の実現や本市の様々な課題解決のため、各分野別に必要な施策を展開するものであり、子育て支援もその一端を担いながら取り組んでおります。そうした中、本市が実施する子育て支援施策については、妊娠出産期から保育学童期に至るまで、一定の水準以上のレベルで担保されていると感じるところであり、子育て世代をはじめ、多くの市民や市外の人たちにさらに分かりやすく周知することが必要と考えております。これまで、広報しょうばらにおいては、子育て支援の特集を掲載し、市各部署で横断的に取り組む子育て支援サービスを周知するとともに、子育て当事者に対しても各種支援を分かりやすく取りまとめた子育て支援ガイドブックの配布を行っております。また、市ホームページのトップページに子育て支援一覧を掲載するな

ど、市内外に対しても本市の子育て支援の PR に取り組んでいるところです。今後も子育て家庭のニーズを的確に把握し、子ども、若者、子育て当-事者への切れ目のない支援を提供するとともに、引き続き、子育て当事者への周知はもとよりのこと、幅広く本市の子育て環境の PR も意識した効果的な PR 手法についても検討してまいります。

[05:10] 堀内富雄 議員：はい。今おっしゃっていただいたように、この未来子どもプラン等、しっかり書いてあり、本当に充実しているなと、改めて自分が関わりのなかった分野なので客観的に見させていただくと、「これもあるのか、あれもあるのか」と感じ、かなり充実しているなという感想を受けました。さらに、現場での声を聞きますと、他市からも庄原市の施策が良いので、庄原市まで来てサービスを受けているんだという声も聞きました。実際には住んでいただいてサービスを受けていただくのが一番良いと思いますが、はい。施策自体はかなり充実していると思いますので、あとはそれをどう PR していくかが大事なのではないかと考えております。その点について、追質問をさせていただきます。1 つ、見える化の工夫についての提案をさせていただきます。例えば、先ほど妊娠期、出産後、そして保育期まで段階的に包括されているという話もありましたが、そこをもう少し見える化して発信すれば、これから出産を考えている方にも安心感を届けられるのではないかと考えております。松江市の例を申しますと、妊娠期に 5 万円、出産後に 5 万円と 2 段階の給付になっております。結果的には庄原市と同じ 10 万円であっても、市民には 2 回もらえる、あるいは早く支給してもらえるということが魅力になっているようです。支給金額の大小ではなく、どんな支援を受けながら安心して子どもを育てられるかという流れをイメージで伝える PR が必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

[07:07] 児童福祉課長：ご質問にお答えいたします。見える化というところで、PR 手法についてのご質問かと思います。ライフステージごとにどういった支援が受けられるかという見せ方につきましては、先ほど市長答弁の方にもございましたが、子育て家庭に配布しております子育て支援ガイドブックにつきましては、妊娠期から高校生までの支援サービスについて、子育てカレンダーといった形で見ていただくような工夫をしておるところでございます。また、市のホームページにおきましても同様に、子育ての支援策について、それぞれのライフステージにおいてどういったサービスがあるのかというものを、同じような子育てカレンダーという形で紹介しておるところでございます。引き続き、子育て当事者であります利用者の方、それ以外の市民、市外の方々にも見ていただけるような形での見せ方、掲載内容につきましては、PR 手法も含めて研究に努めてまいりたいと考えております。

[08:16] 堀内富雄 議員：はい、ありがとうございます。ガイドブックも非常に見やすくて、素晴らしいものだなと思っております。ただ、ホームページに関して、先ほども申した通り、自分もそろそろ結婚して子供を持ちたいなと思って調べた時に、どこを見ていいのか少し分からず、たくさんあるのですが、その子育てカレンダーのところまで行けば、「ああ、こういうことなんだな」とイメージができるのですが、そこまでたどり着けなかったという経緯があります。そういったことも含めて、先ほども、実際の家庭の声などを反映していただいているというところもありましたが、実際に市民参画型の PR の提案を一つまたさせていただきたいと思います。広報等にも当然載せていただいておりますので、庄原で産んでよかったというリアルな声を届けることは非常に有効だと思っております。ただ、広報だけではやはり見せ方にも限界があるのかなと感じております。しかも昨今の SNS を利用される世代に対しては、なかなか広報だけでは伝わらない部分も多いのではないかと感じております。そこで例えばですが、お母さん方でチームを作っていただいて SNS で発信する、そういった市民参画型の PR を進めるということに対して、市として共同で取り組める可能性はあるのかどうか、お伺いいたします。

[09:52] 児童福祉課長：ご質問にお答えいたします。市民を巻き込んだ PR 手法ということでの取り組みについてのご質問かと思います。市民の当事者の声については、先ほど議員もおっしゃっていただいた通り、昨年も取り組みました広報しょうばらの特集号の中で、支援者側の市職員の支援の内容について顔が見えるような形での記事も掲載したところでございますし、実際の子育て支援サービスを受けられたご家庭の方の生の声も載せていた状況でございます。子育て支援につきましては、子育て支援センター等で、お母様方がお集まりいただいてサークルがあったりしますので、そういった中で口コミのような形で広がっていくことも期待するところでございますし、子育て支援センターの方には子育て推進員の方もおりますので、そういった推進員を中心に、庄原市の子育てについての PR が徐々に広がっていくような形で取り組みが進めば良いかなと思っております。また、市民を巻き込むことになるのかどうかは分かりませんが、毎年子ども祭りというのをやっております。今年も 11 月 3 日に備北丘陵公園の北入り口にあります里山の駅しょうばらふらりの方で開催をしておりますので、そういった場面を通じて、庄原市あるいは庄原市以外の方にも参加いただいて、庄原市での子育てというものを PR できればいいかなと考えておるところでございます。

[11:28] 堀内富雄 議員：はい、ありがとうございます。支援センターの方も、非常に活動をたくさんやられていらっしゃいまして、昨日も、ふらりの方に自分も少し行く用事があったので行ってきたんですが、子どもたちがたくさん集まって非常に元気に遊び回っている様子を伺いました。今、自分の課題感で感じているところが、来てもらえれば十分に満足していただける、そのような支援もできるということになるのですが、その来てもらうまでというところに今、課題があるのではないかなと感じております。その点について、お考えがあればお伺いいたします。

[12:13] 児童福祉課長：ご質問にお答えいたします。一応、こちらの方で色々な PR を考えながらしているところですけれども、なかなかその来てもらうというところには色々な課題もあったりとかいうこともあろうかと思いますので、その来てもらえるというところも意識しながらの PR について検討を進めてまいりたいと考えております。

[12:41] 堀内富雄 議員：はい、ありがとうございます。ぜひ色々検討していただいて、まず足を運んでもらえるというレベルに、高い水準に持ってこられればいいなと考えております。次の提案ですが、今度は庄原市ならではの付加価値をつけるという手法も有効なのではないかと考えております。例えば、今は出産祝い金という形で現金を支給されていると思いますが、これに加えて、例えば、今本当に需要が高まっている庄原産のお米、こういうものを届ければ、金額だけの比較だけでなく、庄原で住めば、庄原で産めば食に困らない、そして庄原での子育てというのは、安心安全な食べ物を子どもたちに食べさせることができる、というようなブランドを打ち出せるのではないかと思っております。今後の農業後継者の育成も含めた、食と子育てをつなげるストーリーとしても、PR としては面白いと思いますが、こちらはいかがでしょうか。

[13:46] 児童福祉課長：ご質問にお答えいたします。庄原市の子育て支援についての PR 手法について、他の事業とのセットということでの色々なストーリーを作った上での庄原らしさということでのご提案と受け賜わりました。他の自治体でも、お米をですね、お配りするということを取り組んでいらっしゃることは承知しておるところでございます。そういったことが庄原市でできるかどうかはまた研究をしてまいりたいと考えておるところでございますが、一つ、庄原市で取り組んでおることで言いますと、他の林業振興課の事業ではございますが、庄原市のヒノキを使いまして、ご出生されたご家庭に、積み木か写真立て、そういったものを選んでいただいて、そち

らにお名前と生年月日を彫ってお渡しする事業も取り組んでおりますので、そういった事業等も踏まえて、庄原市での子育て支援ということについての PR をしていきたいと思っております。

[14:55] 堀内富雄 議員：はい、ありがとうございます。庄原産の材木を使ってのプレゼントという形で、非常に庄原らしくて素晴らしいなと思っております。これをですね、最後の提案になるのですが、こういった支援を生まれた時だけにプレゼントというのではなく、例えば支援を受けた子どもが成人した時に、それまでに受けた支援をまとめて、「あなたは庄原で生まれて、こういう支援を庄原市から受けて（庄原市だけではないかもしれませんが）、立派にここまで育ったんだよ」という手形とか記録という形でプレゼントするなど、長期的に縁というものを可視化できる仕掛けも考えられると思います。庄原市が成人するまで伴走する町、というふうに示すことができれば、他市にはない大きな強みになるのではないかと思っております。長期的な子育て支援 PR、こういったものをどのように描いておられるのか、見解を伺いたいと思います。

[16:05] 児童福祉課長：ご質問にお答えいたします。長期的な視点を持った子育て支援についての考え方等でございます。先ほど、議員のご提案の中にも色々プレゼントというお話がございました。ご出生の時には先ほど申しましたような庄原市の材木、木材を使った製品をお配りしているという取り組みをしております。また別に、ご出生して 3 ヶ月から 4 ヶ月目のお子様の家庭のところには、ほのぼのネットの方で訪問するんですが、その際にはやはり木でできたおもちゃの配布の方もしておりますので、その成人になった時にまた記念になるようなものを渡しできるかどうかというのは、また関係課等も含めて研究の方をしていきたいと思っておるところでございます。また、庄原市での子育て支援につきましては、庄原市で生まれたお子さんがまた大きくなった時に、また子どもを産む、育てるという世代になるということも考えながら、長期的な視点でもって、子ども子育て家庭に寄り添った支援を続けていきたいと考えております。

[17:24] 堀内富雄 議員：はい、ぜひですね、子ども、そして子育て世代、お母さん方、お父さん方に寄り添った支援ですね、1 回お金を渡して終わり、1 回物をあげて終わりで済ますのではなく、長期的に関わっていける仕組みをぜひ考えていただきたいなと思っております。はい、次の小項目に入らせていただきたいと思います。次は、ふるさと応援寄付金を活用した未来投資についてのご提案です。子育て支援策が充実していることを PR し、さらに強化するための一つの施策として、庄原市ふるさと応援寄付条例によっ

て、7 つの事業区分が今設けられていると思いますが、それを子育て教育支援に一本化することを提案いたします。例えば、実際にやっていらっしゃる自治体がございます。大分県豊後高田市では、ふるさと納税を全て子育て支援に充当すると明確に打ち出し、全国から共感を得て寄付金額を伸ばし、出産祝い金や各種無償化施策を実現しています。本市においても、子育てを第一に考えて実行している自治体であると強く発信することで、寄付者の共感を得て、財源確保と市のブランド力向上の両立が可能になるのではないかと考えますが、市長の見解を伺います。

[18:53] 市長：ご質問にお答えをいたします。本市ではふるさと納税による寄付金の使途として 7 つの事業区分を指定し、寄付者からの寄付を募っております。寄付金の使途につきましては、寄付者によりその意向が異なることから、定住促進や子育て支援、JR 芸備線の利用促進など、本市の取り組みに多くの方から応援をいただいており、基本的には区分の変更予定はございません。なお、ご紹介いただきました豊後高田市の取り組み事例でございますが、事業区分の一本化により寄付額の増加と本市のイメージ向上につながる効果があるのか、検証が必要であると考えております。以上です。

[19:49] 堀内富雄 議員：はい。当然、庄原市には様々な課題もありますし、様々応援していかなければいけない分野があるのは承知です。一本化が難しいことは理解します。しかし、市民や寄付者から「庄原市は何を大切にしているのか見えにくい」という声があるのも事実です。先日、実際に子育て中のご家庭からアンケートを独自に取らせていただきました。その中で、こんな声がありましたのでご紹介させていただきます。「児童手当が高校で終わるけれども、専門学校や大学で大変お金がかかるので支援が欲しい」「庄原に住むには車がいるけれど、維持費だけでも大変」「日常の生活費がそもそも足りない」「高校卒業を機に児童手当がなくなるのは本当に困る」「子どもの出費は毎月違う。子育てに優しい町にしてほしい」「児童手当だけでは足りない」「子ども用品のお店が少ない」「家賃が高い」「給食の無償化、習い事の補助、学習用品の無償化を望む」といった声が上がっております。繰り返し述べさせていただきますが、庄原市の子育て支援は、他市と比べても決して見劣りのするものではないとは思います。しかし、現実にはやはり一部であるかもしれませんが、こういった声が上がっております。そこで、一本化とまではいかなくても、重点化、具体的に他市ではやっていないようなことにチャレンジするのも良いのではないかと思います。例えば、先ほどあった「車の維持費だけでも大変」。庄原市は大変広い市ですから、車は非常に必要になってくるものであります。この車維持にかかる補助、例えば車検代と

かですね。あとは、お母さんと子どもたちで、たまには 1 年に 1 回くらいご馳走を食べに行けるようなお金、みたいなもの、お金でなくてもそういった招待券みたいなものとか。そういった直接的に生活の助けになるものや、心の支援につながるものを考えてみてはいかがでしょうか。そういった子育て分野に当てた寄付金を明確に、具体的に公表する「見える化」という PR を進めることで、「庄原は子育てを第一に考えている」と誰にでも思ってもらえるように、明確に伝えることができるのではないでしょうか。見解を伺います。

[22:38] 地域推進課長：はい、ご質問にお答えします。議員からは、アンケートの結果や市民の声を踏まえたご提案というふうに受け止めておりますが、市長答弁の方にありましたように、本市では寄付者によって使途の意向が異なることから、ふるさと応援寄付金の使途を 7 つの事業に区分化しております。子育て支援の他、定住促進でありますとか、観光交流事業、教育文化に関する事業といった分野に活用をしております。また、先日徳永議員さんの方からもありましたが、JR 芸備線の利用促進に活用してほしいといった強い思いを持って寄付をされる方もいらっしゃるのも事実でございます。これらの分野につきましては、いずれも本市の将来にとって重要な課題であり、より質の高い施策を推進するように考えております。

[23:49] 堀内富雄 議員：はい。そうですね。この子育て支援にふるさと納税を使うという点で、先ほども述べました通り、その支援をされている側、支援を受ける側が、何によって支援されたのか、どういった思いで支援されたのか、どういった方から支援されたのかというのも有機的につながる必要があるのかなと感じております。ただただお金を渡すのではなく、その後の、その子たちが大人になった時に、「じゃあ自分たちはこういうふうに育ててもらったから、こういう風に庄原に恩返しをしていこう」という思いを持ってもらえるような、そのためのツールの一つとして、このふるさと納税というものが機能するのではないかという思いで、今回の提案をさせていただきました。その子育て支援というのは、子育て支援だけでなく教育もそうですが、スティーブン・R・コヴィー氏の書籍『7 つの習慣』で言うところの「最優先事項を優先する」という項目に当たると私は考えております。つまり、緊急ではないのですが、重要な領域です。ただ、実はご存知の通り、今も叫ばれている通り、緊急になりつつある、もう緊急になっているかもしれないという領域になっています。今すぐどうこうなるという状態ではないので、緊急であると認識されていないだけかもしれません。緊急でないために対策が後手に回っているとは言いませんが、まだまだ本気になっていない部分があるのかなと、少し思っているところがあります。投資効果もすぐには現れませんので、結果が出るまでに少し時間がかかってしまいます。10 年、20 年単位の時間がかかります。いずれ、このままだ

と本当の緊急になってからでは間に合いません。だからこそ、今のうちに投資をする必要があるというふうに考えております。そのあたりの見解をお伺いいたします。

[29:09] 企画進行部長：ご質問にお答えいたします。「投資を緊急にしなくてはならない」というご質問でございますけれども、先ほども地域推進課長が申し上げましたように、子育て支援策にはかなり予算を投じております。一端を申し上げますと、例えば保育所等の管理運営事業、これには第 2 子、第 3 子の無償化・半額等も含まれますが、令和 7 年度予算で 11 億円を超える予算をかけております。また、乳幼児医療費助成等、こちらについては 7,000 万円を超える予算をかけてやっております。こうした投資を、しっかりこれまでもやってきておりますが、今後、先ほども市長答弁の中にありましたけれども、ニーズをしっかり把握しながら施策を進めていければというふうに思っております。議員ご提案の中身につきましては一定理解をしておりますけれども、先ほど市長答弁にもありましたように、市のブランド、それから、ふるさと納税の金額の増額、ま、そうした物に繋がるかどうかというところは、しっかり検証してまいりたいと考えております。

[30:47] 堀内富雄 議員：はい。大変にその子育て方面に支援、お金を割いていただいていることは、重々承知しております。そのための今回の一般質問のテーマであります、大々的に PR をするというところに焦点を当てています。あくまで、もっともっと拡充してほしい、もっともっとお金が欲しいといった意味合いの質問ではございません、今回は。実際に、本当に悔しい思いをした事例が今月あったのですが、私の近所で赤ちゃんが生まれました。お父さんの実家が日和町、私の近所で、赤ちゃんが生まれて奥さんと一緒に戻ってらっしゃったんですね。今その方は、松江市で働いてらっしゃいます。勤務先の松江市と実家の日和町で、一旦どっちで子育てをするか悩まれたそうです。そして、色々ホームページ等で調べて、色々悩んだ挙句、松江市を選ばれました。少し悔しかったですね。しかも、ですよ、この後、選んだ後に、よくよく見てみたら「あんまり変わらなかったね」ということも聞きました。結局それは、PR の仕方に問題があったのではないかと私は考えております。ただ、やはり将来的には、その生まれ育った日和町に戻ってきたいという声もいただいておりますので、そこは数年先に、「ああ、やっぱり庄原に戻ってきてよかったな」というふうに思ってもらえるような体制、思ってもらえるような伝え方、これをすることが今、最優先事項になっているのではないでしょうか。見解をお伺いいたします。

[32:58] 生活福祉部長：先ほども、子育て支援策については、議員の質問等を通じて一定の評価をしていただいてありがとうございます。そういった中でも、PR が十分でないという点でございます。先ほど松江市を引き合いに出していただいて、比較検討、比較等をされたということで、最初の追加質問の時にも、妊娠時 5 万円、出産時 5 万円という部分の見せ方でありますとかいうことをおっしゃっておりましたが、本市につきましても同じように、妊娠期 5 万円、出産期 5 万円という制度で、広報周知をしております。さらに、他市の出産祝い金、これは第 1 子、第 2 子 10 万円、第 3 子 25 万円、さらに小中学校の入学時、入学祝い金ということでございます。これらを全て、議員が理解をして、そのお知り合いの方とお話をされたかという部分は分かりかねますけれども、そういった部分がホームページ等を見られた方に十分伝わっていなかったのであれば、今後、これまでも市長の答弁等でも申し上げております通り、これまで以上に分かりやすく伝えていく必要があるかと思います。さらに、その伝える施策の部分におきましても、答弁の中で、本市は一定水準以上のサービスが担保されているという答弁をさせていただいておりますが、このことをもって今以上のことをやらないということではなく、答弁の中にもあったように、子育てニーズを的確に捉え、さらに、当事者の声を今後、広聴の場でもお聞きするようにしておりますけれけれども、そういうところでしっかりお伺いする中で、今見直すべきものは見直す、充実させるところは充実させていく中で、庄原で子育てをしてみたいと思っていただけるように PR をしていきたいと思っております。今おっしゃっていただいた方が、子育て支援だけを見て他市を選ばれたかどうかは分かりませんけれども、子育て支援の面では、今まで以上にしっかり PR できるように努めてまいりたいと思います。

[36:46] 堀内富雄 議員：はい、ありがとうございます。はい、前向きな答弁をいただいて、本当にありがたいところでだと思います。当然、おっしゃられたように、子育て支援のみを見て松江市を選ばれたということでは当然ないとは思います。今働いてらっしゃるということもあるので、そういった総合的に見てというところなんですが、自分に言われた時は「調べてみて、比べた時に」というふうに言われたので、引き続きその PR といういった面で、非常にもったいないのです。本当に充実していると思うので、もったいないんだと思うのです。そこは、ホームページの改修でありますとか、おそらく、とてもまだ予算のかかる話にはなってくると思うのですが、職員さんでやっていただくのにも限界はあるかもしれませんが、そのあたりも含めて前向きな検討をしていただけたらというふうに考えております。そのために、今回のその応援寄付金という形で、見える化というのが、ある程度必要なのではないかなと。金額の多寡ではなく

ですね。その、当然広報誌でも PR はしていただいています。ただ、その寄付金となると、やはり全国の寄付者に「ああ、庄原は未来に本気で投資している町なんだな」ということが見せ方によっては伝わると思います。財源確保の部分は多少考えて、あとは市のブランド力向上ですね、これを実現して行っていただきたいなというふうに思っております。金額ではないんです。どう PR、どう打ち出すか、「庄原市ってこんな町だよね」って一言で言ってもらえるかにかかっていると思うんですが、そのあたりの見解をお伺いいたします。

[38:32] 企画進行部長：ご質問にお答えいたします。繰り返しの答弁で大変申し訳ないんですけれども、先ほど申し上げましたように、豊後高田市等の例を示していただきましたので、今後、そうした取り組みを検証する中で、庄原市の取り組みについて検討してまいりたいというふうに思います。

[39:09] 堀内富雄 議員：はい、ぜひですね、ふるさと納税というのは、もう字のごとく「ふるさとに対する応援」ですね。庄原で育って、全国各地に散って活躍していらっしゃる方、すごくたくさんいらっしゃると思います。その方たちも、少なからず育てていただいた庄原市、ふるさとに対して何らかの恩返しがしたい、間違いない、そうふうに思ってらっしゃると思います。そういう方々が寄付してくださっていると信じたいんですが、現状、返礼品ですね、こちら目当てで寄付されてる方も当然多数いらっしゃると思います。そこをですね、「ああ、庄原市は、その全国から、全国に散った庄原市民の、元庄原市民の皆さんが応援したいんだという気持ちで寄付をしてくれている町」というふうになればですね、全国的にも「ああ、なんか庄原市、すごく面白い市だな」というふうに思ってもらえるんじゃないかなというふに考えております。最後にですね、今の行政も、本当にたくさん支援いただいていると思います。市民を支えて、守っていただいているというふうに思っております。それに加えて、支援をしっぱなしにするのではなく、いかに市民が「参画」できるか。参加ではなくてですね、ずっとこの「参画」という言葉を使わせていただいてるんですが、「一緒に町を作る」というスタンスですね。老いも若きも、言ってしまえば子どもたちもですね。今どうしても、やはり子どもが少なくて、「子どもは宝だ、宝だ」という感じですね、まるで晴れ物を触るように育てている環境になってしまっているのかな、とも少し思います。自分が子どもの時はですね、少し太鼓叩きに来いと強制的に連れて行かれて、行ったら行ったで、何かおやつを食べさせてもらえるし、太鼓叩きをすればお金ももらえるという感じで、社会に参画しているという感覚がありました。そういったところを、これは本来、地域でやるべきことではあるとは思うんですが、市全

体でそういった空気感を出せるようになればいいなというふうに感じております。そういったところに、もし共感いただけたらですね、最後に、「庄原は市民と共に未来を作る町である」ことを、市長のお言葉で聞かせていただけたらなというふうに思っております。いかがでしょうか。

[42:02] 企画進行部長：はい、ご質問にお答えいたします。市民がまちづくりに参画をするということで、現在、第 3 期長期総合計画を策定いたしておりますけれども、これからいかにですね、そうして参画をいただくかというところも課題になってこようかと思います。言われるようにですね、しっかり広報・広聴をしながらですね、市民の方にも伝え、市民の方からの意見を収集しながらですね、まちづくりを進めてまいりたいというふうに考えております。

[42:46] 堀内富雄 議員：はい、ありがとうございます。はい、ぜひですね、皆さん一緒にですね、庄原市の未来、明るい未来を築いていければいいと、いうふうに思います。以上で質問を終わります。

[43:16] 議長：以上で堀内富雄議員の質問を終わり、一般質問を集結いたします。